

I  PIANO
ピアノ音楽誌

CHOPIN

magazine

ショパン

8

AUGUST 2010
NO.319
PRICE 820YEN

月刊『ショパン』×週刊『モーニング』連動企画
『ピアノの森』—ノ瀬海、ショパンコンクール参戦中

『ピアノの森』—ノ瀬海が
ショパン誌にやつてきました！

—ノ瀬海、ショパンコンクール参戦中

綴込付録
CHOPIN'S COLLECTION

ショパン名曲
やさしい&ジャズ風アレンジ
『ソナタ第3番』
口短調
作品58

特集1▶あなたも一緒に踊りませんか？

ショパンの舞曲、徹底攻略！

特集2▶接戦！ 実力派が協奏曲で激突

第4回仙台国際音楽コンクールピアノ部門

特集3▶ショパンの国に行こう！

新旧を知りつくす、ワルシャワの街ガイド

横山幸雄によるショパンの名曲誌上レッスン

『ピアノの森』—ノ瀬海 ICHINOSE Kai
©一色まこと/講談社

 Chopin
2010

ショパン生誕200年

[特集2] 接戦! 実力派が協奏曲で激突

第4回仙台国際音楽コンクール

ピアノ部門 6月13日~27日 仙台市青年文化センター

協奏曲を中心とした課題曲を特徴とし、単にスターを見ることだけでなく、若い音楽家にオーケストラとの共演の機会を与え、育成することを目的としている仙台国際音楽コンクール。楽都仙台で3年に1度開催され、これまでにも実力派を輩出してきた。第4回となった今年は、そのコンセプトに似合った、思慮深く気品のある、大人の音楽を聴かせたヴァディム・ホロデンコさん（ウクライナ／23歳）がピアノ部門で優勝。日本の佐藤彦大さん（22歳）は、のびやかでエネルギーに満ちた演奏で3位に入賞した。

文◎編集部 高坂はる香 ステージ写真提供◎仙台国際音楽コンクール事務局

▶第1位
ヴァディム・ホロデンコ
(ウクライナ／23歳) [使用ピアノ] 斯タインウェイ
Vadym KHOLODENKO

▶第2位
マリア・マシチエワ
(ロシア／27歳) [使用ピアノ] 斯タインウェイ
Maria MASYCHEVA

The 4th SENDAI INTERNATIONAL MUSIC COMPETITION

▶第3位
**マリアンナ・
ブルジェヴァルスカヤ**
(スペイン／28歳) [使用ピアノ] カワイ
Marianna PRJEVERSKAYA

▶第4位
佐藤 彦大
(日本／22歳) [使用ピアノ] 斯タインウェイ
SATO Hiroo

▶第5位
ムン・ジヨン
(韓国／27歳) [使用ピアノ] ヤマハ
MOON Zheeyoung

▶第6位
クワン・イ
(アメリカ／25歳) [使用ピアノ] ヤマハ
Kwan YI

セミファイナル、ファイナル — 実力伯仲のステージ

予選、新たな試み

今回は、史上最多となる286人のピアノ部門応募者の中から、書類による予備審査ののち、世界6都市でおこなわれたオーディションを通過した39名が本大会のステージに立つた。このオーディションでは、コンテストの名前や年齢、所属大学などの情報が一切公開されない状態で審査がおこなわれたという。また、コンクールの冒頭でおこなわれるピアノ選びでは、コンテストは会場に同伴者を連れて入ることができず、15分の試弾ののち、その場で決断をすることになっている（ピアノを途中で変更することは可能）。ステージ上のピアノの配置も5人試弾することに入れ替えられるそうだ。このように、仙台コンクールでは、さまざまな意味で公平なコンクールを実現するための規定が随所に設けられている。

協奏曲を課題曲の中心とすることを特徴として始まつたが、ピアノ部門で今回から課題曲に新しいシステムが導入された。前回は、予選でショパンのエチュード2曲とモーツアルトの協奏曲を演奏することになっていたが、ピアニストにとってはソロ演奏も大変重要な判断材料となることから、今回からは、予選はソロで35分間のリサイタル。それも、所定の作曲家の作品から1曲を含んで

由度の高い課題となつていた。このシステムにより、演奏からだけでなく、プログラミングからもピアニストの個性が垣間見られることはおもしろい。しかし一方で、ほとんど演奏機会のない楽曲が演奏され、しかもそれがプログラムの大部分を占めてしまう場合、審査委員側としても、まったく知らない曲を評価することに難しさを感じたという声も聞かれた。

音楽家としてのすべてが見える セミファイナル



コンサートのステージにて

指揮の山下一史氏、仙台フィルハーモニー管弦楽団との共演でおこなわれるセミファイナルでは、12名が所定のベールの進出はならなかつたが審査委員特別賞を受賞した、ファン・ナンソン（中国／16歳）がいる。努力から身についたであろう圧倒的な技術と指の強さはもちろん、聴く者を引きこむ力、豊かな獨特の音には、客席でも多くの人が魅了された。さすが若くして数々のジュニアコンクールで優勝しているだけに、オーケストラとのコミュニケーションもこなし、16歳とは思えぬ堂々としたベートーヴェンの3番を聴かせた。仙台コンクールの聴衆賞は、セミファイナル各日にひとりづが投票で決定されることになっているが、初日の聴衆賞はファンに贈られた。

同じく初日に演奏したワン・ミニ・ジュエ（中国／24歳）は、ベートーヴェンの1番をさっぽりと美しいものに仕上げ、深い印象を残した。また、2日目の聴衆賞を受賞したクワン・イ（アメリカ／25歳）は、ベートーヴェンの1番を、さまざまな表情をさらりと表現しつつ、大変端整に奏でて聴かせた。

トーヴェンの協奏曲またはモーツアルトの協奏曲より1曲を選んで演奏する。

この、「音楽家としてのあり方がトータルでわかる」（野島稔審査委員長）課題曲だけに、それぞれに異なった音色や解釈が多彩な音楽性を見せる、興味深いラウンドとなつた。

中でも印象に残る演奏をしたコンテストを挙げるとすれば、ファイナルへの進出はならなかつたが審査委員特別賞を受賞した、ファン・ナンソン（中国／16歳）がいる。努力から身についたであろう圧倒的な技術と指の強さはもちろん、聴く者を引きこむ力、豊かな獨特の音には、客席でも多くの人が魅了された。さすが若くして数々のジュニアコンクールで優勝しているだけに、オーケストラとのコミュニケーションもこなし、16歳とは思えぬ堂々としたベートーヴェンの3番を聴かせた。仙台コンクールの聴衆賞は、セミファイナル各日にひとりづが投票で決定されることになっているが、初日の聴衆賞はファンに贈られた。

ファイナル



授賞式に顔を揃えた入賞者たち

仙台市青年文化センター内でおこなわれた。ファイナル進出の決まつた6名はその後、演奏順と、事前に申請した協奏曲2曲から1曲を決定するくじ引きをおこなうため、すぐさま集められ、説明会会場へと導かれていった。

セミファイナルから3日間をあけておこなわれたファイナル。初日のトップは、

[特集2]接戦! 実力派が協奏曲で激突 第4回仙台国際音楽コンクール

The 4th SENDAI INTERNATIONAL MUSIC COMPETITION

第1位 ヴァディム・ホロテンコ(ウクライナ/23歳)

【演奏曲目】予選:ショパン ポロネーズ第5番 /ラフマニノフ 練習曲集『音の絵』第2番、第4番、第5、第6番、第8番、第9番 セミファイナル:モーツアルト ピアノ協奏曲第25番ハ長調K503 ファイナル:ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番ハ短調作品18

第2位 マリア・マシチェワ(ロシア/27歳)

【演奏曲目】予選:バッハ トッカータ嬰変短調BWV910 /ハイドン ピアノソナタ変ロ長調Hob.XVI:41 /リヤブノフ 12の超絶技巧練習曲集第10番作品11-10『レズギンカ』 /シューマン ノヴェレッティニ長調作品21-セミファイナル:モーツアルト ピアノ協奏曲第24番K491 ファイナル:プロコフィエフ ピアノ協奏曲第3番

第3位 マリアンナ・ブルジェヴァルスカヤ(スペイン/28歳)

【演奏曲目】予選:ハイドン ピアノソナタハ長調Hob.XVI:48 /シューマン ピアノソナタ第1番 セミファイナル:ベートーヴェン ピアノ協奏曲第2番変ロ長調作品19 ファイナル:ブームス ピアノ協奏曲第1番ニ短調作品15

第3位 佐藤 彦大(日本/22歳)

【演奏曲目】予選:ベートーヴェン ピアノソナタ第31番 /リスト ハンガリー狂詩曲第12番 /ドビュッシー 前奏曲集第1集第11曲『バックの踊り』第12曲『ミントス』 セミファイナル:ベートーヴェン ピアノ協奏曲第2番 ファイナル:ラフマニノフ ピアノ協奏曲第2番

第5位 ムン・ジョン(韓国/27歳)

【演奏曲目】予選:ハイドン ピアノソナタイ長調Hob.XVI:12 /ブームス 4つの小品作品119 /ラヴェル ラ・ヴァ尔斯 セミファイナル:ベートーヴェン ピアノ協奏曲第3番 ファイナル:チャイコフスキイ ピアノ協奏曲第1番

第6位 クワン・イ(アメリカ/25歳)

【演奏曲目】予選:デュティユー 3つの前奏曲第3曲『対比の遊び』 /ブームス 7つの幻想曲作品116 セミファイナル:ベートーヴェン ピアノ協奏曲第1番 ファイナル:シューマン ピアノ協奏曲イ短調作品54

審査委員特別賞

ファン・ナンソン(中国/16歳)

聴衆賞セミファイナル第1日(6月19日)

ファン・ナンソン(中国/16歳)

セミファイナル第2日(6月20日)

クワン・イ(アメリカ/25歳)

セミファイナル第3日(6月21日)

パール・ダーヴィット(ハンガリー/28歳)

ヴァイオリン部門(5月22日~6月6日)

第1位 クララ・ジュミ・カン(ドイツ、韓国)

第2位 アンドレイ・バラーノフ(ロシア)

第3位 長尾春花(日本)

第4位 キム・ボムソリ(韓国)

第5位 キム・テミ(韓国)

第6位 ジオラ・シュミット(アメリカ)



ファン・ナンソン



ワン・ミミ ジュエ



結果発表のステージ、握手を交わすホロテンコさんと佐藤さん

華やかな美しい外見にあって、太くどつたりとした音で軽々とこの曲を演奏する姿に、最初から最後まで圧倒されるという感じ。続いて登場したのは、マリア・ブルジェヴァルスカヤ(28歳/スペイン)。ブームスの1番という大曲を選んだ。音楽に入り、堂々と客席にメッセージを送りこんでくる。オーケストラの中で音がキラリと光る印象的な演奏だった。そして初日の最後を飾ったのはヴァディム・ホロデンコ。指が鍵

のない独特なラフマニノフの2番だ。指揮者の山下氏が、ふたつの大曲を演奏した後の仙台フィルに疲労がみられたかもしないと振りかえって案じていたが、ホロデンコの思慮深い音楽性がオーケストラと共に鳴して、完成度の高い音楽を創りあげていた。

一夜が明けて、最終日は、ムン・ジョン(韓国/27歳)のチャイコフスキイ1曲からスタートした。がつちりとピアノ

の日本人となっていた佐藤彦大がラフマニノフの2番を演奏。のびのびとした力、自由なエネルギーが漲り、オーケストラもそれに応えた演奏で、ステージに一体感が生まれた。佐藤彦大がラフマニノフの2番を演奏。のびのびとした力、自由なエネルギーが漲り、オーケストラもそれに応えた演奏で、ステージに一体感が生まれた。

結果としては、個性ある成熟した演奏で多くの審査委員を納得させたと思われるホロデンコが優勝。続く2位には、バランスの良い演奏をしたマシチェワが入って、3位をブルジェヴァルスカヤと佐藤が分ける形となった。多くのコンクールで10代半ばのピアニストの上位入賞が目立つ昨今、すべての入賞者が20代という、仙台ならではの結果を残して幕を閉じた。

「ロニアニの3番を弾いた。日本の方の演奏には安定感があつて、他では聴いたこ

とに向かう。彼の演奏はもう少し柔軟性があるべきだ。」

クに演奏した。続いて、クワン・イがシユーマンの協奏曲イ短調を演奏。安定感も高く、充分な技術とともに弱音から力強いパートまで端整に紡いで、オーケストラとも息の合った演奏を聴かせた。そ

してラストは、セミファイナルから唯一の日本人となっていた佐藤彦大がラフマニノフの2番を演奏。のびのびとした力、自由なエネルギーが漲り、オーケストラと一緒に演奏していく様子が大変強烈だった。協奏曲が課題の中心と

し、スケールの大きな音楽を描いた。

[特集2] 接戦! 実力派が協奏曲で激突

第4回仙台国際音楽コンクール

The 4th SENDAI INTERNATIONAL MUSIC COMPETITION



—3位に入賞され、今のご気分は?

国際コンクールでの入賞は初めてですから、驚きました。ファイナルが決まりた時点で充分だという気持ちで、最後はガラコンサートのような気分で演奏しました(笑)。最終奏者らしく、その務めを果たそうと。

—もう一曲はショーマンの協奏曲を選んでいましたが?

このところショーマンの協奏曲を演奏する機会が多くつたので、正直コンクールが始まるころはその気分だつたんです。が、もちろんどちらの作品でも良かった

否かを露呈するような課題曲ですし。ファイナルのブームスは、大曲ですかねもちろん大変です。できたらラフマニノフの2番を演奏したかったのですが、私はブルームスもとても好きです。指揮の山下さんは、私のやりたい音楽理解してくださるのが本当に早く、演奏中もほんの少しのタイミングの変化にみごとに反応してくださいました。演奏し

て練習をして、コンクールに備えます。その後、ドミニカでショパンの協奏曲2番を演奏する予定があります。

—ご両親はロシアの方で、スペインで育ったのですね?

はい、生まれたのはソ連時代のモルダヴィアで、92年にスペインに移り住みました。

—ショパンコンクールでは、ショパンの言いたいことを真に理解しなくてはいけません。

はい、写真を撮ることと、絵を描く

とてもエキサイトした気分で演奏できましたね。この曲は、ラフマニノフが鬱から快復したところに書いた曲と言われているので、それを意識したところが少しあったのかもしれません。終盤はちょっと元気になりすぎたかも……少々オーケストラを振り回してしまったかなと思います(笑)。

—とても楽しそうにピアノを弾かれていましたが、ピアノが嫌になるときもありますか?

もちろんあります。辛いのは、曲に向かってもやりたいことができない、そしてやりたいことが見つからないとき。新しい曲に取り組んでいるのに、自分がこの曲で何をしたいのかが見つからない、様子がわからないときは辛いです。

—コンクールを通して成長したといふ実感はありますか?

弾いていくうちに、自分が目指したところにようやくたどり着けたという気がしました。次のステージに残る喜びからくるのかもしれません。コンクールを受けると、知らぬ間にうまくなれてしまう気がするんです。僕、最近自分の演奏は、舞台で初めて何かが出てくるということを自覚しているんです。のつてことないと、なんにもならないみたいで。ホールの響きや会場の雰囲気を感じて、初めて音色が変わる。練習のときとはまったく違うんです。



第3位 マリアンナ・ブルジェヴアルスカヤ

「表現したい音楽を実現できる環境でした」

—結果はいかがですか?

すごく嬉しいです。メダルをいただけたことは、とても大きかったです。

—一番大変だったステージは?

予選から、それぞれ異なる形で大変でした。セミファイナルの古典派の作品は、自分がちゃんとした音楽家なのか

否かを露呈するような課題曲ですし。ファイナルのブームスは、大曲ですかねもちろん大変です。できたらラフマニノフの2番を演奏したかったのですが、私はブルームスもとても好きです。指揮の山下さんは、私のやりたい音楽理解してくださるのが本当に早く、演奏中もほんの少しのタイミングの変化にみごとに反応してくださいました。演奏し

て練習をして、コンクールに備えます。その後、ドミニカでショパンの協奏曲2番を演奏する予定があります。

—ご両親はロシアの方で、スペインで育ったのですね?

はい、生まれたのはソ連時代のモルダヴィアで、92年にスペインに移り住みました。

—ショパンコンクールでは、ショパンの言いたいことを真に理解しなくてはいけません。これは教わってわかることでもありませんし、教えてもらつても自然には演奏できません。夏の間はスペインに帰りますよ。